ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

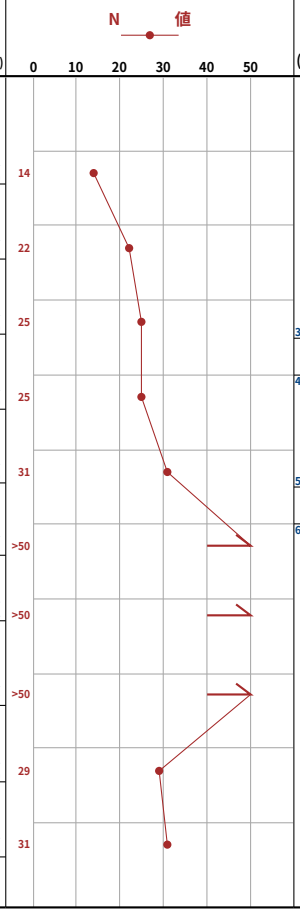
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	R1	調査位置				北　緯	36 ° 33 ' 54.0600 "
発 注 機 関	栃木県 真岡土木事務所			調査期間	2008-10-27 ～ 2008-10-28	東　経	140 ° 03 ' 16.8700 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	105.35 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	10.00 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	104.75	0.60	0.60		表土 (SF)	暗茶 灰			有機質シルト。礫φ10～30mm位含む。耕作により乱されている。		
1					砂礫 (GS)	暗茶	中ぐらい		φ5～30mmの亜円礫主体。礫間は中～粗砂と少量の細粒土分で緩く充填する。 所々、礫φ40～50mm程度が散在し、又、集中箇所もまじえる。		10/27 2.15
2											
3									4.8m付近に最大コア長6cm(推定φ150mm内外)の玉石を認める。 5.0m下、亜円礫φ5～30mm多く、最大φ50mm内外が混在する。徐々に細粒土分の含有上昇が伺える。		
4									5.5m付近より細粒土分多く、充填度合いは上昇し、7.1m位まで粘土質砂礫状呈する。砂分は中～粗砂が多い。		
5							密な				
6						茶褐	非常に密な		以深、色調暗緑灰色に変化し、細粒土分やや減少するも、充填度合いは密実。砂分は中～粗砂による。		
7											
8						暗緑灰					
9	96.15	8.60	9.20		砂質粘土 (CHS)			非常に硬い	全体に細砂を混入して、非常に硬く締まる。徐々に砂分増して、9.8～10.2mにかけて砂分優勢。10.2m付近より淡褐灰色となる。		
10	94.90	1.25	10.45			灰		固結した			

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	5	5	4	14／30	14
1.45					
2.15	6	6	10	22／30	22
2.45					
3.15	8	8	9	25／30	25
3.45					
4.15	8	7	10	25／30	25
4.45					
5.15	10	9	12	31／30	31
5.45					
6.16	18	20	12／5	50／25	>50
6.41					
7.15	31	19／4		50／14	>50
7.29					
8.15	16	19	15／7	50／27	>50
8.42					
9.15	9	9	11	29／30	29
9.45					
10.15	8	11	12	31／30	31
10.45					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
3.50	現場透水試験 現場透水試験					
4.00						
5.50	現場透水試験 現場透水試験					
6.00						10/27
						10/28